

新年のごあいさつ



松浦市長

友田 吉泰

明けましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で国内外が未曾有の危機に直面した一年となりました。緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛や学校の休業要請などが行われたほか、さまざまなイベントや行事が中止となり、飲食業や宿泊業などをはじめ、経済にも大きな影響を受けました。

このような中、本市においては、5月に「すこやか青プラザ（松浦市市民福祉総合プラザ）」がオープンしました。またその隣接地において、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）による「JCHO松浦中央病院」が11月に開院しました。

11月8日には、鷹島海底遺跡の調査開始40周年を記念し、松浦市文化会館において「元寇サミット」を開催しました。

また、本市では34年ぶりとなった宮中献穀事業が、今福町木場免で実施され、11月23日に宮中で執り行われた新嘗祭に献上されました。

さらに、調川地区において移転新築を

進めていた新調川公民館が、11月27日に竣工いたしました。

一方、近年では毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生していますが、本市においても9月に台風9号および10号が立て続けに接近しました。特に台風10号では市内14カ所に公設避難所を開設し、10カ所の自主避難所も合わせると、ピーク時では573世帯、1,042人の人が避難されました。

さて、迎えた新しい年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組みながら、コロナを乗り越えた先にある新たな成長・発展の基盤づくりを進める年となります。

まず、3月には平成28年度に事業着手した「松浦魚市場再整備事業」が完了し、4月から全面供用開始します。

次に、「鷹島小中学校」については、新校舎の改築工事および既存校舎の改修工事などが3月には完了し、4月の新学期より新校舎での学校生活がスタートします。

御厨地区において県事業として進められている「松浦港（御厨地区）緑地整備事業」については、現在、施設配置などの基本設計の策定が行われており、令和3年度には、実施設計および一部工事に着手する予定となっております。

スポーツの祭典、東京2020オリンピックについては、新型コロナウイルス感染症の影響から本年7月に延期して

開催されることとなりましたが、本市においてはオリンピック開催を祝し、5月8日に聖火リレーを実施することとしております。

国による非効率石炭火力発電所を対象とした段階的な休廃止に関する議論については、本市の経済並びに財政運営など、広い分野において多大なる影響が懸念されます。これまで我が国の経済発展に大きな役割を担ってきた電源立地自治体として、他の立地自治体や電力事業者などと連携し、国に対し、2050年の「脱炭素社会」に向けた新技術開発などの新たな施策を講じていただくよう要望してまいりたいと考えております。

新しい年もコロナ禍や人口減少など厳しい情勢の中でのスタートとなりますが、本市は市民の皆さまと共に、総合計画に掲げる「学び育てるまち」「誇れるまち」「仕事をつくるまち」「未来へつづくまち」「安心、幸せのまち」「皆でチャレンジするまち」の6つの将来像の実現を目指し、持続できるまちづくりに取り組んでまいりますので、ご支援並びにご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が皆さまにとりまして、健やかで輝かしい年となりますよう心から祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



松浦市議会議長

久枝 邦彦

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日頃から市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、年号が「令和」へと変わって二年目、躍進を感じる年となりました。本市におきましても、市民が集う市民福祉総合プラザの完成や市民待望の24時間救急医療を担うJCHO松浦中央病院の開院など記念すべき一年となりました。

一方では、新型コロナウイルスの蔓延によって世界中の人が制限された生活を送り、我が国においても未だ終息が見えない状況にあります。一日も早い有効なワクチンおよび治療薬の開発を期待します。安心して暮らせる松浦市であり続けるために、どうか市民の皆さまにおかれましては感染対策を怠ることなく、健やかな一年をお過ごしいただきたいと願っております。さて、社会に目を向けますと、近年の人口減少・少子高齢化社会の到来により、

国も地方も大きく変革する中で地方の果たすべき役割や責務がますます重要となっております。

このような中、市議会および各議員が果たすべき役割および責務の重要性もますます増大してきておりますが、昨年の市議会12月定例会において、次回市議会議員選挙から議員定数を17名から1名削減し、16名とする条例改正を行ったところであり、市民の代表である市議会といたしましては、執行機関と切磋琢磨しながら、まちづくりの主役は市民皆さまであること、を第一に、住みやすく暮らしやすいまちづくりの実現に向けて市議会一丸となって専心努力してまいりたいと考えております。

これからも市民皆さまのご意見を市政に反映させるべく尽力して参りますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が、市民皆さまと本市にとりまして、より良い一年となりますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



オーストラリア マッカイ市長

グレッグ・ウィリアムソン

明けましておめでとうございます。

昨年は何という年だったのでしよう。

コロナウイルスの世界的大流行という厳しい状況の中で、例年のように互いのまちを訪問することはできませんでしたが、姉妹都市のことを忘れたことではありません。現在のところ両市とも最悪の事態は免れているようですが、終焉まではまだまだ長い道のりで、警戒が必要なことは明らかです。

マッカイ市でもコロナウイルス感染症の陽性者が確認され、市ではZOOMやTeamsといったソーシャルメディアを採用し、職員は通常の業務やイベントをオンラインに切り替えて行ってきました。市立図書館では、子ども達のためのプログラムを撮影し、インターネット上に投稿しています。また、議会の様子もライブ配信され、以前よりも多くの人々が行政に参加しやすくなりました。毎年開催しているマッカイ市の文化芸術祭も中止とはせず、イン

ターネットを通して世界中の人々に配信され、4日間で8万人以上の人々が視聴しました。

ご覧になった人もいらっしゃると思いますが、シスター・シティーズ・マッカイのフェイスブックには、これまでの姉妹都市交流に関する投稿が定期的に行われ、両市の美しい風景や、2020年の日本語スピーチコンテストについても掲載されています。

2021年が昨年とは異なり、以前当たり前にあった日常が戻って、海外の友人を再び訪れることができる年となることを心から願っています。

妻のアニネット、マッカイ市議会議員、および市役所職員から松浦の全ての皆さまに新年のご挨拶を申し上げますとともに、皆さまのご多幸を心からお祈り申し上げます。